

言語教育研究センター

フランス語海外研修
2019年度募集要項



期間

2019年8月2日（金）～9月1日（日）

場所

フランシュ・コンテ大学 応用言語センター
(C.L.A.)
フランス ブザンソン

Séjour Linguistique en
FRANCE

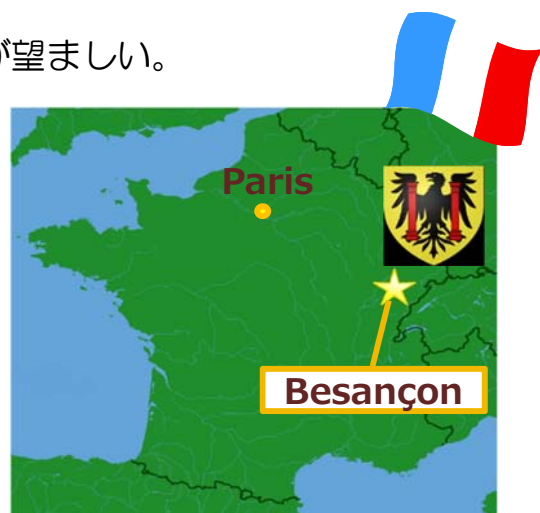
Université de Franche-Comté
Centre de Linguistique Appliquée de
Besançon

1. 参加資格・定員

参加資格：全学部生（学年は問わない）
言語教育科目のフランス語を履修していることが望ましい。
定員：25名

2. 実施大学

フランシュ・コンテ大学 応用言語センター (C.L.A.)
(ブザンソン市/ブルゴーニュ=フランシュ=コンテ地域)



3. 実施時期

2019年8月2日（金）～9月1日（日）※渡航日の変更の可能性あり。
<現地での授業期間：2019年8月5日（月）～8月30日（金）>
注1）このプログラムは国際情勢の変動などにより、本学の判断で中止またはスケジュールを変更することがある。
注2）参加決定者は、2019年度春学期定期試験の追試験を受験できない。

4. 参加費

45万円 <渡航費、授業料、宿泊費、海外旅行保険料等。現地での交通費・食費は別途必要。>
注1）為替レートの変動等やむを得ない事情により、追加徴収することがある。
注2）SGU短期留学奨学金（5万円）に出願可能。

5. 授業時間

1日5時間。1週間に20～25時間×約4週間＝計約100時間
★レベルは初級から上級まで用意されており、各学生のレベルに合ったクラスで授業を受けることができる。

6. 単位認定

研修先大学が発行する成績に基づき、参加者が帰国後、「単位認定願（4単位）」を所属学部提出することにより、単位認定を行うことが可能。

7. 宿舎

大学が提供している寮(予定)

8. 募集説明会

日時： 2018年11月 8日（木）12:50～13:20
2018年11月14日（水）12:50～13:20
場所： 西宮上ヶ原キャンパス G号館 221教室 ※2回の説明会の内容は同じ。

9. 申込／選考／合格発表

言語教育研究センターHP (https://www.kwansei.ac.jp/c_language/) の申込フォームから入力。所定フォームを印刷し、必要事項記入および写真貼付の上、以下の期間に窓口で申込手続きを行うこと。

申込期間：2018年11月19日（月）～11月30日（金）16：50 締切

窓口：教務機構 言語教育研究センター

NUC：G号館1階

KSC：アカデミックコモンズ2階

※フランス語中期留学と併願する場合は、所定の期間内に別途、国際教育・協力センターにて手続きを行うこと。

選考：2018年12月15日（土）9：30～（予定）面接

※面接はフランス語および日本語で実施。

合格発表：2019年1月9日（水）9：00 教学Webサービスにて発表

Centre de Linguistique Appliquée
Université de Franche-Comté



10. 参加費の納入

申込金：50,000円 2019年2月8日（金）15：00 納入締切

残金：400,000円 2019年3月15日（金）15：00 納入締切

11. オリエンテーション・事前研修

オリエンテーション：2019年1月10日（木）12：50～13：20（予定）

事前研修：出発までに3回程度実施予定。別途、危機管理研修を開催予定。
内容・日程（土曜日を中心に行う予定）については、決定次第お知らせ。

注）参加者は、出発までに行われるオリエンテーションおよび事前研修に必ず出席すること。

12. 海外旅行保険

言語教育研究センターを通して海外旅行保険に加入する。

参考）昨年度加入した保険の補償項目は以下の通り。

傷害死亡／障害後遺障害／治療・救援費用（無制限）／疾病応急治療・救援費用／
個人賠償責任／携行品損害／旅行事故緊急費用

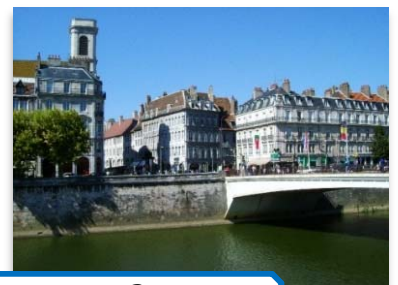
13. 注意事項

参加取り消しの場合は、次の通り取消料金を徴収する。

4月5日（金）までに取り消しの場合 50,000円

5月24日（金）までに取り消しの場合 400,000円

出発の前日までに取り消しの場合 全額



La ville de Besançon

À propos de la ville de séjour<滞在先について>

■ Besançon (ブザンソン市/ブルゴーニュ=フランシュ=コンテ地域圏)

ブザンソン市は、フランス東部に位置し、ブルゴーニュ=フランシュ=コンテ地域圏・ドゥー県の県庁所在地。県はスイスと国境を接し、ブザンソンは蛇行するドゥー川に囲まれた場所で発展した、緑豊かな避暑地。スタンダールの『赤と黒』の舞台であり、毎年9月にはブザンソン国際音楽祭が開かれ、小澤征爾がブザンソン国際指揮者コンクールで優勝し、世界的指揮者としての第一歩を踏み出した地でもある。また、世界遺産である『ヴォーバンの防衛施設群』の城塞や市壁があり、“芸術と歴史の都市”として知られる。

■ Université de Franche-Comté / Centre de Linguistique appliquée de Besançon (フランシュ・コンテ大学 応用言語センター[C.L.A.])

1958年に創設され、現在は70カ国以上から年間5,000人を超える学生が学ぶ、国際色豊かなキャンパス。専任教員70名のうち約3分の2は外国人に対するフランス語教育を専門とした教員で、優れた教員が少人数クラスで集中したレッスンを行う、フランス有数の言語教育機関の一つ。

Impressions de deux participantes<2018年度参加者の感想>

文学部 2年 高田 万有里

私はこの研修で様々なことを得ることができました。一つ目は語学力です。実際にフランスで生活をし、自分たちだけで買い物や旅行をするだけでもフランス語のトレーニングになりました。フランス語で人と会話をすることが自分のフランス語力を試し、上達させることにつながりました。会話ができたときは達成感を感じ、さらには学習への原動力にもなりました。

二つ目は普段の授業に対する意識が変わりました。研修中の授業では、生徒が積極的に先生に質問をしていたのが印象的でした。そのため、日本での学習でも先生に質問することへの抵抗が少なくなったと感じています。

三つ目はフランスに対する意識の変化です。研修に参加し、以前よりもフランスを近くに感じるようになり、フランスがより好きになりました。この研修をきっかけに、またフランスへ行きたいと思うことが増え、日々の学習にも力が入ります。

短い期間ですが、自分で実際に体験すること全てが成長に繋がると感じます。臆することなく積極的に行動し、自らを成長させる良い機会にしてください。



商学部 2年 影山 知美



私はフランス語の上達を第一の目標として研修に参加しましたが、実際現地に行くとそれ以上に得るものが多くありました。それは、フランスの文化・フランス人の生き方を目の当たりにすることで新しい価値観が生まれ、日本を客観的に見られるようになったことです。フランスに行くと、日本がいかに便利でストレスフリーな国であるか、そしてフランスがいかに自由を尊重し、それが生活を豊かにしているかを感じます。フランス語のレベルアップはもちろん重要ですが、現地に行かなければ感じられないことを沢山感じて欲しいです！1か月の留学は短く感じるかもしれませんが、積極性をもって意欲的に行動すれば必ず行って良かったと思えます。